千葉県障害者就業・生活支援センター連絡協議会だより

広報紙　第19号
令和2年１月31日発行
≪発行元≫
千葉県障害者就業・生活支援センター
連絡協議会 会長　藤尾　健二

会長挨拶

新春の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。元号が「令和」に変わり初めて新年を迎えました。昨年は様々なことがありました。天皇陛下の皇位継承により時代が令和に移りました。その年を表す漢字も「令」となり、まさに令和に沸いた一年になりました。スポーツではラグビーワールドカップが初めて日本で開催され、日本代表のベスト8入りという偉業により日本中が熱狂しまいた。そのような嬉しいことがあった一方で、これまでに経験をしたことが無い台風による甚大な被害を千葉県においても経験し、いまだ復興がままならない地域もあります。この他にも様々なことが目まぐるしく駆け抜けた一年だったのではないでしょうか。

私たちの仕事に目を向けると、公的機関における障害者雇用者数の不適切な計上に関する問題は、いまだ多くの課題を残しており、当協議会としても積極的に意見・発信していかなければならない状況にあります。また、障害者雇用ビジネスと呼ばれる雇用モデルの課題も山積している状況です。この問題については3月に開催する連絡調整会議において取り上げる予定ですが、ようやく議論のテーブルについたと言っても過言ではありません。12月に開催された就労フォーラムNIPPONにおいて、これらの事態がなぜ起こるのかを村木厚子さんが端的に話をされていたことがとても印象に残っています。「雇用率は会社（社会）に課された宿題です。宿題を出さなければ勉強しない。だから宿題を出すのであって、宿題をやることが目的ではない。宿題をやりさえすれば良いと考えるから、様々な問題が起きるのではないか。」という内容でした。宿題をやったことにしてしまおうという水増し問題、宿題を他の人にやってもらうという雇用ビジネスの問題、まさにその通りだと感じました。とはいえ、企業は雇用率、移行支援事業所等であれば就職率など、多くの縛りがある中で宿題に取り組んでいる状況であると考えます。

私たちナカポツセンターはこれらについて「あるべき姿」を追求できる数少ない資源ではないでしょうか。連絡協議会の活動を通して「目指すべき社会」「障害のある方の活き活きとした就業生活」を妥協すること無く求め続ける役目があるのではないでしょうか。今年もみなさんと一丸になって「障害者の働く」について考え、行動していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

会長　藤尾　健二

特別部会報告

特別部会では、障害者就労や障害者雇用に関して、その時々で課題になっていることを協議し、内外部に発信していくことを目的としています。今年度は「障害者の雇用の質」「公的機関における就労支援の在り方」について、県内のセンターから9名が集い議論を進めています。

まず雇用の質については、最近一つの株式会社が、“働きたい障害者”と“雇用したい企業”に働く場を提供する、俗にいう「障害者雇用ビジネス」が流行っています。障害者にとっては社会保険に加入され最低賃金も守られる、企業にとっては障害者法定雇用率が達成される、場所を貸すことによって大元の会社もプラスになる。まさに『WIN-WIN-WIN』です。

しかし、一方で、働く場所は本社とはかけ離れており、本社にほとんど知られることなく交流もなかったり、福利厚生が行き届いていなかったりという話も聞きます。私たちは、本当にそれだけでいいのか、中身は伴っているのか、デメリットはないのか、何でもかんでも働ければ、雇用できればいいという時代ではないということを協議会内で共有し、『ブレない支援』のためのツールにしたいと考え、議論しています。

また、公的機関における障害者雇用については、千葉県教育庁から報告のあった障害者雇用の不足数は、先日の報告で300名を超えるとありましたように、各省庁やその他の公的機関でも雇用しなければという動きが加速しています。そのような状況の中、各センターが公的機関とどのような関わり方をされているのか、現状を確認し、どこまで支援をしていくべきかなどについて意見交換をしております。

今後、それらについて県内16センターへアンケート調査を実施したうえで、再度部会で話し合い、集約した内容を協議会の会議で報告し、支援の足並みを揃えていくことを目標としています。また、制度施策部会と協力してもっと広範囲に調査を行い、さらに深掘りをしたうえで、関係各所に現状を知ってもらえるよう発信していく予定です。

私自身、特別部会に所属し、今回の課題と向き合いメンバーと協議、情報交換をする中で多くのことを学ばせていただいております。また、これからの障害者雇用の在り方、働く喜びを感じられるあり方はどうあるべきなのか、向き合ういい機会になっております。これからさらに問題意識を持ち、どんどん議論を重ねていきたいと思います。

大久保学園　会田

ぶらり～ナカポツの旅

キャリアセンター　～時代の流れ変化への対応～

今から遡ること･･･平成15年の12月

キャリアセンターは千葉県単独事業としてスタートしました。当時は6名の職員で「障害者とは？就労とは？」と右も左もわからない中での、それはそれは心細い船出でした。

建物は千葉県勤労青少年ホームとして使われていた建物をそのまま利用しており、カーテンすら準備されていない中で、障害者の就労支援ではなく、今はやりのDIYのようなことを一日中やっていました（時代の先取りです）。当時を思い返すと、日々雇用機会を広げることを考え、障害者雇用の可能性がありそうな企業へ電話をかけ撃沈したことや、支援の名の下に企業に入り障害者の方と一緒に仕事をしていたことを思い出します。（遠い目・・・）

それが今では、障害者雇用の制度や雇用に前向きな企業の増加、地域連携の出来る機関や協力し合える全国のナカポツセンターの仲間など、当時の自分からは想像も出来なような状況があります。

現在のキャリアセンターは、県単独事業とナカポツセンター合わせて19名と3倍以上の職員を数えるまでになりました。それだけ時代が流れ変化をしてきたのだと思います。

（最近のキャリアセンター）

平成30年度より年間6回、精神サポーター等養成研修を実施しています。精神障害の方の雇用については、各企業で様々な課題を抱えています。会社同士、成功事例や失敗事例などを共有するグループワーク、医療側から知る精神障害、就業している当事者からの発信など、精神障害の方がその能力を十分に発揮し職場に定着出来るよう、共に働く人を対象に精神障害を深める研修になっています。開催毎にたくさんの方に応募をいただいており、精神障害の方の雇用について学ぶ場のニーズを感じています。

キャリアセンター　栗原

第1回　N-1グランプリ　IN　大阪　参加報告

福島就業支援ネットワーク優勝！

ネットワークを自慢するグランプリ、故にN-1グランプリ。開催地は大阪でメインの参加者も関西勢という完全アウェー。とはいえ、北は福島、南は愛媛から「良い連携してまっせ」という猛者が集まる中、「我ら千葉ナカポツ連絡協議会のネットワークは世界一っ！！」と鼻息荒く、いちされん西村氏と制度施策部会の柄澤で乗り込んできました。

障害者を、支援者を、はたまた地域をつなげたいというそれぞれの発表はとても印象深いものがありましたが、「無いなら作ろう」という『開拓精神』と、「自己犠牲は不要。必要なのは関わる人たちが『当事者』になること」という声が特に多く印象に残りました。その点で我々千葉のネットワークは見事に『開拓精神』に溢れ、連携の『当事者』を増やしている点で、良いネットワークは構築されていると改めて振り返ることが出来ました。

また、「ワンテーマのネットワーク」は行き詰まりやすく発展性がない」という発信には胸に刺さるものがあり、我々協議会もいろいろなモノを包括していくネットワークでありたいと考えさせられました。

※N-1グランプリとは、たかつき・しまもと障がい者就労支援ネットワークが主催する地域ネットワークのあり方についてプレゼンを行いグランプリを決める大会です。

はーとふる　柄澤

地質時代名称
チバニアン決定

ふる里学舎地域生活支援センター

ふる里学舎地域生活支援センターのある市原市は、古くは上総国府が置かれ、文化や行政の中心地として栄えました。1963年5月に5町が合併し誕生、1967年に10月には1町1村が合併し、今日の市原市になりました。その結果、市原市は千葉県一の面積となり、北部沿岸部から南部の養老渓谷まで車で行くと1時間以上かかるほどの広さです。

人口は約27万人で、臨海地域には全国第3位の製品出荷額等を誇る石油化学コンビナートが立ち並び、内陸に入ると豊かな自然に恵まれています。ゴルフ場の数は日本一を誇り、トロッコ列車で美しい里山や「チバニアン」で有名な田淵の地磁気逆転地層を巡ることが出来ます。また、ジェフユナイテッド市原・千葉のホームタウンとしても知られています。

ふる里学舎地域生活支援センターには、就職されている方、就職を希望されている方など600名を超える方が登録されており、日々、求職活動支援や定着支援に奔走しています。当センターでは、「遊びも仕事も本気で」をモットーとして、余暇支援にも力を入れています。法人には入所施設や通所施設が多数あり、一泊旅行や日帰り旅行、クラブ活動等を企画・開催しています。登録している方々にも多くの参加をいただいています。

また、臨海部には大企業が連なり、内陸部には中小企業や福祉・教育・医療などの事業所が多数あり、障害者雇用に関する相談もよくいただいています。企業への働きかけとして、これから雇用をする、すでに雇用している企業の担当者に集まっていただき、雇い続けるために必要なことなどを本音で話し合い、顔の見える関係を作る催しを毎年実施しています。

昨年の台風や豪雨では市原市も被災地となり徐々に復興していますが、今何が出来るのか、今後何をしていくべきなのか、在宅生活、就業生活を支えるセンターとして、皆さんの平穏な日々を支援していければと思います。

ふる里学舎地域生活支援センター　小泉

いちされん西村さんの
つ・ぶ・や・き

私どもがよく受ける相談として、親元を離れ生活がしたいのでグループホーム（以下GH）を探したいと相談が多くあります。しかし実際のところGHは数が多くあるわけではなく、入居に関しては狭き門となります。私どもの圏域では、様々な福祉サービスを利用しての一人暮らしをされる方も多くいらっしゃいます。今後は地域生活支援拠点事業など、緊急時の対策がとれる事業なども展開されるとも聞いています。しかし生活していく上で最も大切なのは地域の方々の支え、地域での理解や協力は不可欠なものとです。ここ最近様々な災害がありました。その際に地域の方々の協力が重要であると再認識出来ました。緊急時、私たち支援者が出来ることはほとんどないものだと無力さを感じたものです。地域での支援力活性化に向けての活動を、更に頑張らなくてはと改めて考えさせられました。

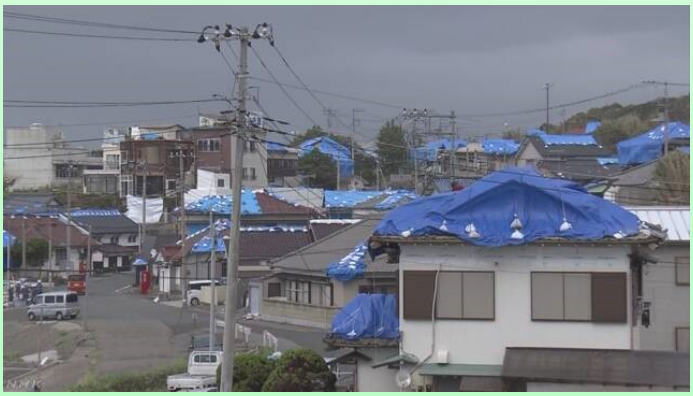
いちされん　西村

「爪痕」 安房地域の台風被害

令和元年9月9日、ファクサイと呼ばれた台風15号は千葉県に甚大な爪痕を残していきました。

9月8日22時頃から風雨が強くなり、シャッターを閉めた住まいに雨が横殴りに叩きつけてきました。0時頃には雨、風以外にも瓦が落ちて割れる音、時折聞こえる「バリバリッ」という轟音に家族でヒヤヒヤしていたことを思い出します。早朝6時、風が弱まり外へ出るといつもとは違う光景が目の前に現れました。大量の割れた瓦とガラス、折れてしまった庭木、どこから来たのかわからないカーポート･･･、前夜の轟音の理由がようやく理解できました。

自宅の状況を確認し、すぐに事業所に向かうと更に凄惨な状況が見えてきました。散乱した瓦や看板、崩れた土手、曲がった信号。山間の道では行く手を遮る土砂と山から流れこんだ雨水。事業所の隣「布良地区」では空襲でもあったかのような屋根の無い家や、柱がむき出しになった家屋。どのように復旧していくのか皆目見当がつかない状況でした。



今回のような災害に対して今後どのように備えていくのか。先日防災研修に参加した際に講師より「警戒レベル4は全員避難では無く、特に福祉施設では全員避難が終え安全確保が完了していることが重要。守るべきは命、そのためには常に先を見て行動することが大切」とのことでした。

これから常に起こりうる災害に対して、今改めて考えていくことが必要です。

中里　近藤

担当圏域	名　　称	電話番号
千葉市	千葉障害者キャリアセンター	043-204-2385
船橋市	大久保学園	047-457-7380
市川市・浦安市	いちされん	047-300-8630
習志野市・八千代市・鎌ケ谷市	あかね園	047-452-2718
松戸市・流山市・我孫子市	ビック・ハート松戸	047-343-8855
柏市	ビック・ハート柏	04-7168-3003
野田市	はーとふる	04-7124-0124
成田市・佐倉市・四街道市・八街市 富里市・印西市・白井市・印旛郡	就職するなら明朗塾	043-235-7350
香取市・香取郡	香取就業センター	0478-79-6923
銚子市・旭市・匝瑳市	東総就業センター	0479-60-0211
東金市・山武市・大網白里市・山武郡	山武ブリオ	0475-77-6511
茂原市・長生郡	長生ブリオ	0475-44-4646
勝浦市・いすみ市・夷隅郡	ピア宮敷	0470-87-5201
館山市・鴨川市・南房総市・安房郡	中里	0470-20-7188
木更津市・君津市・富津市・袖ケ浦市	エール	0438-42-1201
市原市	ふる里学舎地域生活支援センター	0436-36-7762

編集後記・広報部会より

今年はいろいろなことがありました。新元号から始まり台風災害、ラグビーワールドカップなどうれしいことやつらいこと、一度にまとめてやってきた年でした。

我々千葉県ナカポツセンター連絡協議会では16センターすべてでワンチームとなっています。今後も楽しいことつらいことを皆で共有し、共に戦っていきたいと思います！　　中里　近藤

事務局
千葉県障害者就業・生活支援センター連絡協議会
障害者就業・生活支援センター
ふる里学舎地域生活支援センター
千葉県市原市今富1110-1
電　話：0436-36-7762ＦＡＸ：0436-26-7090
E-mail：fg.shien@yukeikai.jp
ホームページ：http://www.chiba-centernw.com/